



歌城歌集  
夏秋  
二



特別  
~4  
7350  
2





57  
14  
7350  
2



歌城歌集

夏

首夏

たぐりくよ新綿をちろのかけもよるなきよう風のおきよけつ  
山里より月日のゆくととよき福とひたうおのねつこくたうき  
夏のもくしんくはよとるの鳴とききて  
谷陰ふのさるさくらハかきんともをいこくねーくくしきの  
首夏藤  
夏のゆてあをまきあふあぬるとねあふちの花を咲か



○歌城歌集二

○一





その夏月

まのあまうしあまふあまきこころのあはれ一月やとねた花のあ  
更衣

花の書札のあはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと  
本村定良のあはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと

あはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと  
徐花

あま紫とくかしまうたあまや一夜とくあはれと  
雨中徐花



あはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと

遅梅

あはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと

新樹

あはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと

新樹坊月

あはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと  
あはれとくかしまうたあまや一夜とくあはれと



今日かまつゆを垣やうつもまじし初書つうさうさうの元  
あさあかのなひくこまさを清けあれ垣根のうまをさうやく  
木のちらふんえさす舟の類とうかあゆゆう垣のうねる

垣甲五

卯月きてうの元さうの山あきのまねうまかきぬ清き  
人のあは垣根の卯宗とつうまを

加茂五

うづひさすこの車さつうまねるくもあつうひもつう

車ふの控る人か茂ゆつ

花やうふえおふちをさうおの役らうまやさうむ

灌佛

天津さうゆつのおさる水もあらと今もゆ像ゆさうか

郭五

清海のやせこのわうの明方にたあうみすきてたうほとき

郭もねもる夜のつきねまや山後出てとたうぬかたう

しらさかんのさうさうふささう山の控いつうかまか

浅香直光のあはさうまゆ郭五



とつくと山海ふきの郭ふまらそやまかじむらやう多秘む

待郭と

おとそとふふそむそ郭ふおとそらん年もつと

あふく南坐ふおねーんそ

なけやね吉山郭ふ六のまやねふとまふらぬのそ

漸待郭と

そちとそねらううせれてしそふまねむ時のまを待はく

未定郭と

そしそらそるハ障まぬらふまふ今つととつとそつとつと

畠山常操のあふて遠郭と

つー雲が山のあぬたれ郭とあふふ春のむそくもあふうね

雨中郭と

そみふのそむ中ゆく郭とあふのこつとふおちくぬか如

ある人のあれ今ふ南坐ふおねーんそ

うらひまの雲がそとそとやねらるあの日ととつとつと

名所郭と

つやあ川ねふの集志のき障あふ園をさくせとつとつと

ほらそき守候やそこの子抱ふこつとつとつとつと



朝郭と

明ふらまきつゝと朝郭と羽田のさやうへもたきあへに

夕郭と

らまぬとしかろ守郭のむねきき今わくた守時あうのすま

夜郭と

ゆえんつゝおききととらと郭と今一ををやまのまらうり

をまきとつゝむらぬうらむ日の月おぬきに時郭と

夢中郭と

かゝくた守きうらつゝとまぬらととせんらま一の扱とあけ

増忠寶の家を月前郭と

一とあふらとをしとや郭と月のらとあふ入かとの山

おのまらゆ言田系郭といふこと

鳴けと行くお止のわとま守言田のあをらぬぬ道や

中世花翁の家をまらぬ扱と

はくしくやわらふるるるのなれ日とつら扱らうらぬもせ

卯月の末をの扱をわく村田春海とせとふ

つゝとぬや

わつゝとぬよもらとぬをぬらうらぬ月もまきとわてとぬ



かきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

標 誰 家

うらみかきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

早 苗

かきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

夕 月 又 日 月

うらみかきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

昔 蒲

うらみかきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

あ 中 昔 蒲

うらみかきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

五 月 雨

うらみかきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

山 家 又 月 日

うらみかきまはたらしめぬのうらみも  
うらみかきまはたらしめぬ

山 家 又 月 日



河五月雨

さみよれのまぬく〜あはれをまきりしきのけし潤そ〜あまのけし

五月あ久

五月あの日かまふ〜あのみねもささ〜しつせぬあまのけし  
さみよれの日〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

名所又月也

あまのまふ〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

管

あまのまふ〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

川よ管

あまのまふ〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

水色管

あまのまふ〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

夕月おあつ〜あまのけし

あまのまふ〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

小池信行〜あまのけし

あまのまふ〜あまのけし〜あまのけし〜あまのけし

今小田道管



あつぬわしむくくよ名もよむ様をたまふ小田女をたかきしや

縁中堂

よききしむくくく縁人の夕にきたるるそのあつりよ

名所堂

後とまがくもゆるわすこなたにたつたかあつりよ新築せん

くろ

不やくまきましくお指の月あひさく縁とつりたつたかあつりよ

さのまふ

くろの縁とまきましくお指の月あひさく縁とつりたつたかあつりよ

夏月

不やくまきましくお指の月あひさく縁とつりたつたかあつりよ

ぬけわしむくくく縁人の夕にきたるるそのあつりよ

日とつりよぬけわしむくく縁人の夕にきたるるそのあつりよ

久見園

かつりよぬけわしむくく縁人の夕にきたるるそのあつりよ

かたはるやうらわえぬけわしむくく縁人の夕にきたるるそのあつりよ

山家夏月



本のりうとほうけえと山里の朝塔は月を夏もさしき  
久志本た京の家あて田上夏月と

極足つる小田のさゆは夏のよふえとやあすひの月をやや

水色夏月

あまのうらゝの母のわづらふは河原おのくを月ふやれと

澤夏月

かきおとるとこの涙は月すくと常よりとあまきしかりけ

河夏月

月きし川原のるふ枝しをゆてもるまつのあまきおやう

野夏月

かあひぬ日さかのまゆはまきまゆかかあまのまきぬ

蟹妻

おつこのやうに笑ますふあまのひたさるるをのわすしこ

瀬石貞固

あまのけりももるを物からしをまあふつこのあまの

加賀十夏月

床夏もゆよけふ花の足はつとわとねことゆきかけらむ

あまのめもるあまのあまきとわすしこのあまよあてけらるるのをねと



245ed on 10/10/20

本のもうとほうけえと山里の朝塔は月を夏まきひき  
久志本た京の家あて田上夏月と

極足つる小田のまゆけあまのよふえとやあすひの月をやまき  
水色夏月

あつらふかき車の下まきれ月あいらくあは淡のかんこつあ  
澤夏月

あまねとよとの涙あ月すくと常よりとまききーかゆけあ  
河夏月

月まきー川流のるふ枝ーを結てもるまきのあまきあまき

あまきあまき野夏州あまきあまきあまきあまきあまきあまき

あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
野夏月

あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
野夏月

あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
野夏月

あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
野夏月



かきしよのたねをいそげしをりしもの

おとこもたれもさきかきおとこもいそげしをりしもの

替は

飛らむおとこのちねもいそげしをりしもの

照附

はらへしをりしものちねもいそげしをりしもの

蚊遣火

かきしよもりしものちねもいそげしをりしもの

はらへしをりしものちねもいそげしをりしもの

里蚊遣火

かきしよもりしものちねもいそげしをりしもの

夕敵

かきしよもりしものちねもいそげしをりしもの

かきしよもりしものちねもいそげしをりしもの

かきしよもりしものちねもいそげしをりしもの

風

かきしよもりしものちねもいそげしをりしもの

風











その花先秋

山崎舟のませは草のつらねのまらつめきとあてはれとほろむ  
夏の夜月のおもろうらうらわいとあふん

六月の月時布あけのかけはぬけけけけけけけけけけけけけけけけ

夏 被

神ゆあけさうくはへのまらせよやそ枯きやおもひとけり  
うきれはれはけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

河 夏 被

くあはてあふしゆきききききききききききききききききききき

あふのまらふ吉剛崎夏被といふこと

まはまきのみそたよさうは麻の葉や海軍川の瀬はけけけけ

夏 色

本はねとみさうさうらむ郭公ねえとまはまきあけけけけ

夏 色

あうとぬらあふさ葉のあらとまら清けふんゆらなつまらけ

夏 色

郭公ねけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

あふのまらふ夏にけ











異さ小松かききよむらひのしほのちほもをあらへ  
ゆきをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ  
おぬしをうらひのしほのちほもをあらへ

歌城歌集

秋

長田守文りあむらふ枯ら日  
まのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ  
けわよまのめまをすけぬのこりえしあうたぬらぬ葉のよこけ



さくかのいせあねさるる宿ねむの木のうねとさくねいさるる

初秋

秋あめとあふうあめもさくさくさくさくあめとあふうあめ

初秋月

けつごめとあき風もあめさくさくさくさくさくさくさくさく

秋もあめさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

あめさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

初秋風

天津をらさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

龍溪庵あておねいさるる

天津をらさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

おやあめさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

初秋

あめさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

初秋山

秋あめさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

初秋田

いっさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく



閑居早秋

秋はうらやまきあはれなるもまよふとわづらひあはれ  
わづらひのそとあはれなるもあはれなるもあはれなるも

山家早秋

今よりいふの言はれしはもろくもかたしと秋の山は  
山里ふすまもそむ世をきくやふ山をわづらひて早秋

名所早秋

うらやまの心やあはれなるも山はもろくもかたしと秋の山は

七夕

しあはれなるの逢夜は秋のけしきも心づくしとせもあはれ  
天の系ひぬきまを織女の逢夜と思ふとくやあはれ  
あまの川からひのあはれなるもあはれなるもあはれなるも

侍七夕

うらやまの日おとすは間を天の河あはれなるもあはれなるも

七夕夜深

天の河さよふけたふあはれなるもあはれなるもあはれなるも

山家

早秋の山はもろくもかたしと秋の山はもろくもかたしと



山家早秋

閑居早秋  
秋はうつらうつらと  
わづらひのそとに  
わづらひのそとに

山家早秋

夕暮の神ふたつ  
山里ふすんしそむ

名所早秋

うたよきのんや  
七夕

七夕

しわねの運夜秋のけ  
天の系ひねしき  
うまね川からひのぬ

侍七夕

うかの日おろす  
七夕夜深

七夕夜深

天の海さよふけ  
子秋の葉おそく

子秋

子秋の葉おそく  
あはれ



妹のこゝろは後瀬川を舟をうつて月をたのむ

つや瀬川舟の葉らに秋の月をたのむ

秋風

風わら秋朝の下を秋をよくとおとらうても秋をよ  
妹の秋は虫のうらみをよくとひらうらつくと秋の秋をよ

閑を秋

かしまし秋をよとひらうらつくと秋の秋をよ

月夜秋

とちほうら月をよとひらうらつくと秋の秋をよ

秋

秋のこゝろは後瀬川を舟をうつて月をたのむ

村田春海もよふ秋はつげ

おとらうて君はそ見はるむらら秋の月をたのむ

かゝし春海もよふ秋はつげ

いゝと見はるむらら秋の月をたのむ

行路秋

まらうておとらうて君はそ見はるむらら秋の月をたのむ

秋



らうりぬるきしとてしむる花やう世とわらば庭のあはれ花のつら

花 巻

さうあやふふ言ふたのふんてゆと花は枝と花やうしき

女 歌 花

花うすのかさゆとたは守りまよぬひくろあこの女は花は

をみまへしおまわりくせきやうねやと花は招くまら中ハ時

女 歌 花 巻

花はあししはわつきの花は花をひきと見ゆらぬたあし

やうはあまあまうしゆのおくをいひらとまよふもいふれぬりけり

薄 風

つたしきまき葉のまき花はの物もあま中あしこさ

うあまあまのまき下とまきやあままといかしくあはれる花は花

新 巻

あつたあつたのあひは花は花をほりまのあはれゆてくはあしと

うあまあまのしとてあまあまあまといかしくあはれる人あまを

草 花 巻 用

あまあしあまあまあまあま七日しと七種あまら花はあまあま

草 花 巻







とわりの花をそとねうまのふいあねと枯るいんくはちりゆのま  
まと思そしひくもやうて消さるるつゆささあまのふいあね  
枯るはもあもわうはるさよこをこつまふふあまおくあふ

初妹 五七

ひとりやと替そちわいむ枯るれとわうたくれもあねあま  
つるれとわきそあふも枯るういはりあめ神のつゆさ  
は青系あねもつるさのまはるよ花のちるまもあねあふ  
うらつひふまつあやとん甲うめ枯たつとねのはらふのほを

妹 五七

いんくいもほらふとつゆさあまのふいあねと枯るいんく  
夕 五七  
あまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとね

閑中 五七

あまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとね  
妹のねとあまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとね  
あまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとね  
あまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとね  
あまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとねとあまらふらとね







ちのちの虫らとてあはれぬぼらちのあはれぬ虫らとてあはれぬ

月前虫

まづこの月よらとてあはれぬ虫らとてあはれぬ

蟻 陣

あやかきけつ芽うもとのまらとてあはれぬ虫らとてあはれぬ

まらとてあはれぬ虫らとてあはれぬ

花下 蚕

夜もまらとてあはれぬ虫らとてあはれぬ

あはれぬ虫らとてあはれぬ

あはれぬ虫らとてあはれぬ

いぬ

あはれぬ虫らとてあはれぬ

虫

あはれぬ虫らとてあはれぬ

山

あはれぬ虫らとてあはれぬ

野

あはれぬ虫らとてあはれぬ







原上秋風

まのよれ丸を征するさうくくおのりくに秋風ももく

秋夕

静くもも哀なる娘の思はしき山の中あう夜のもく  
なふけあきや山のさほとるふたよ枝のゆへにたぬぬうふ

小倉持

はとすきつとともくく持人のすきまら色はしとさたがう

約途のうき書たる絹ふ

子里りちううあうともあう人のちるはらのかひのうらさま

くわの月略

申くらのつみの夕日かけらもともひきおとそ夏ゆは

月

小夜中ふりうくくともも天の系あうくくや月ももわくく

月の鏡とこくの中お

初秋のおふく月のおかつらねやさくを係かくくあみ  
くぬ人のちるあやみのさほりおを月いつこのさよはまま  
はちうふのつゆおさあきあうらさくく入月のうけをすま  
女節花ももはうたのさくさようちひくかふ月人男



Handwritten note at the top of the right page.

原上秋風

千を思ふらまのせよおし目のよひうらまふくまひいぬつり

秋夕

初くふも新なる娘の思はしとえ山のゆめら我のそく

小倉持

はとすきてつとをもくく持入のすまきもけさるはととさび

約達のうら書たる絹糸

子里りちううあうもある人のちをけいけいのかひのうらま

くわの目略

申くらのつみの夕日かけらまもあまひきおあそあゆは

月

小夜中ふりううとをまも天の原あううくや月もあしわ

月の鏡とこころの中

初秋のあふく月のおかつらねやあを條かへらあ

くぬ人のちうあやみのさほりあを月いつこのあまはま

はちうのつゆあまあまあうらま入月のうけをすま

女節花もてはうたのちのさようちひくかふ月人男



そこのまは花はさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
あつとさうぶなほいふまはさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
常はさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
見よ人の心はさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
花のさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
月をいふもあつとさうぶ  
むらさきよはさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
昔よりさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
え方の月をいふもあつとさうぶ

秋夜月明

えのうみおれのかつきさうらういひふとんをいふもあつとさうぶ  
待月

獨見月

むらさきの梢はさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
すみのうの月のさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ  
月をいふもあつとさうぶ  
いふもあつとさうぶ  
素行のさしつゝ一もつはよの月をいふもあつとさうぶ







つらつらつとわつよのふけそ、ぬかかきか、ぬく月と指さるる

閑居見月

しづかぬそ月かむく人ともなるあまのきひ、静さをもせまぬまきか

二日月

しづかぬそ月かむく人ともなるあまのきひ、静さをもせまぬまきか

十六夜月

いとよひの月かむく人ともなるあまのきひ、静さをもせまぬまきか

居待月

きこひぬくはふいぬあまのきひ、静さをもせまぬまきか

深夜月

おほきき門ごとくして、あまのきひ、静さをもせまぬまきか

山の静かむく月の静さ、静さをもせまぬまきか

有明月

月をともすあまのきひ、静さをもせまぬまきか

閑居月

らたうせむこそあまのきひ、静さをもせまぬまきか

雲間月

きこふよ月のかつくのうすあまのきひ、静さをもせまぬまきか



雨後月

あつらふもよき月かたふきて秋風そよぐ  
山月

山がせよもよき月かたふきて秋風そよぐ  
とたつとぬきとよき月かたふきて秋風そよぐ  
山のとれもみらもよき月かたふきて秋風そよぐ  
すみきと山月かたふきて秋風そよぐ  
秋山のおれ葉もつとよき月かたふきて秋風そよぐ  
あつらふもよき月かたふきて秋風そよぐ

月出山

あつらふもよき月かたふきて秋風そよぐ  
山月

岡月

あつらふもよき月かたふきて秋風そよぐ  
山月

杜月



名と志しぬねむりて雲信くらく月をゆけぬふ

野月

秋のせむせむの志しぬねむりて雲信くらく月をゆけぬふ  
さうてしむふ花をそりてやらぬを月おふ事そりてぬく  
花もさぬ中ととぬる妹のせむせむをいつのやてしぬ月  
山の縞おねとぬるかたかやあゆみえぬ月をさの月うけ

野曉月

まらとちめて妹もさぬ後ふかけうむむを糸の月おあけぬのさうら  
ほのしくと有ぬうすく雲さめくさゆふねうぬいせきさの月お

さる田のあもて月をさぬさうら

秋のあのもうとね糸のあおよふまねきさうの月おあけぬ

山家月

山さやをさぬぬくさうのねまの月おあけぬさやあふんさう

田家月

さきしりの晴やあまのさあおふりて田さよの月おあけぬ  
秋田かさうをねしはま月をねて居かひさむく夜そぬあふり  
梅さしる月のひうらけかろとねて糸紬ふ罌やよるさうらさき  
唐さうら門田乃いねとさうのねてねほさむくすえふ月うけ







澗月

澗のほとりかきしそ風よき方晴てみねと田をかくすや月つけ

海上月

わたのなきうねもりふねのちよは波立をそねいつはつたかき

月前き

まやの明る月のけうふかけしそ波をかくく波にけうふ

月前色

月清しかくてと人のこめ宿ふおのけいせとまつむしをかく  
つきをほむむつらうは林後入つて色もききもを偏く

月前笑

空のけのわつらふふこもすねと月の後をきき清のゆくらむ

月前き情

けきの月をつしそをそ行とねく清き人をきしかくらむ

月前幽思

月をうつほきせは物をとよよもほふつゆさふのこもこりか  
つしとそねかちみこのきあつる月やけきの世のりやうらむ

秋月冷

月しほき戸はねけけらそそねきむおのやうも田くらむ



對月憶昔

高しるもゆふしさとゆきむ月も思ふ人ともなえてし新かき

對月思往事

うー深い嬉しとつひてぬるむ昔の月さけふもきやけき

目と名をさむむうーをこふわーうううを

かとうり方わしむ物とさううーむうーのむる月をさうひき

月夜待人

月つても来まふわつおこみきりうを待と人たいたはや

慈母望月

月かけのともおすむしき山路よりぬけまこもをのたし物らむ  
あそんは道のさう人のかけよこらさぬやうのあたらおの月

家あて高き庭をるは

天津原こよひやねんらさやまんははむむーらもの梅は  
てつてかききてあふけうとようや秋の下葉もかひまさうむ

初春

秋給加たのゆきしを縫もあへすとねあくらさてきうる春こうぬ  
ゆかりのつゝおてわらうさうん積をさむまも梅あふりう  
春中らかりとゆき孤木の枝と又まらうせいのもちぬうけ







天保十四年

朔初序

大なるふたのなく序はけさききさの秋風ふさそりれやあー  
海上序

こゝろみやゆふくもつ朔やけ沖のなみと暮るるあよりさ

夕序 月序

あひまもさつれまきのつるま井のうらふつし秘そそ好く

亭中序

大津序 わつこしらふもつ好けくとしそ亭あまのむさふ

月序のま間序

らきこおのまじまけととあふりーまあふのあす  
るうねのまこゆまのあし色にーまふまあむらあさふ

旅天序

旅人といまやまのむのらと夜うかひまふくーらあつちやま  
あひらつぬわの旅をかつまぬ係ふねのまじまゆしー

あふのまふ旅中序

少ねあけてまのまらうふあけはるも旅旅の友やあーま  
都にさう圓ーさうふあむあふのあしも旅あふ初序のこと

山 亭







あけしちうと

わびしちうとすまの少夜あきく我らふむ林のうら

夜抄

小夜あきしちうとすまの少夜あきく我らふむ林のうら

清系旅風の中より雪上の菊をむかひぬ

うら

吹よあけしちうとすまの少夜あきく我らふむ林のうら

村田春海のうらと菊のうら

うらと菊のうらと菊のうら

あけしちうとすまの少夜あきく我らふむ林のうら

あけしちうとすまの少夜あきく我らふむ林のうら

月照菊

月夜あきしちうとすまの少夜あきく我らふむ林のうら

富忠寶のうらと菊のうら

うらと菊のうらと菊のうら

岸江菊

うらと菊のうらと菊のうら

まきのうらと菊のうら



笑しよりあはれしめ花をむしりてまよふ世をむしむ

岡居菊

うららかに文一とてうららかにあはれむしりてむしむ人の心を

菊のあはれむしりてむしむ

さきうしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

紅葉

かゝりにまはけりあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

村田春海のあはれむしりてむしむ一樹といふ事

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむ

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

岡紅葉

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

紅葉あはれ

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて

紅葉を愛

あはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりてむしむあはれむしりて







西田忠経のあはれみあはれいふ

ゆくぬのしげの夕日新よと暮ゆるはほくまのぬみらたふ

紅葉浮水

りころと妹のよくとおきあをらゆとみちのまかろらむ

寺山吾悦曼りみれまゆを紅葉を

まきまようけふとそつら海このまきまきまのぬみらたふ

したきまをのぬみらたふと酒たたくて見つのかとや

ぼの川おみあを

ぬみらたふのつとをんぬとぼの川おみあをぬみらたふ

名所紅葉

ちしげのぬみらたふのぬみらたふかのつとをぬみらたふ

かきまをぬみらたふと林のぬみらたふとぬみらたふ

まきまのぬみらたふ紅葉をぬみらたふとぬみらたふ

ちしげのぬみらたふのぬみらたふ紅葉今一しとぬみらたふ

ぬみらたふのぬみらたふとぬみらたふ

ぬみらたふのぬみらたふとぬみらたふ紅葉のぬみらたふ

ぬみらたふのぬみらたふとぬみらたふ

ぬみらたふのぬみらたふとぬみらたふの中ぬみらたふのぬみらたふ











うのつら〜もねむ〜とくこふね〜たもくさむ枝の別なうけこ

秋天象

天のく〜つ〜をま〜枝の葉よ〜よ〜のゆく〜〜と  
そ〜ね〜ふ〜もおもわ〜す〜枝の目よ〜く〜く〜天の川みつ

枯る

つら〜のねむ〜ら〜ほ〜ほ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

秋夜

とも〜火の花を〜く〜く〜の〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜  
つら〜のねむ〜ら〜ほ〜ほ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

ころねる本は風よき清うりてたうねとわたり秋の夜をく

枯のよとをやる〜か〜や〜き〜もおも〜く〜つ〜の葉のうらむ

妹夢

む〜ら〜ら〜ら〜のた〜く〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜

枯葉

か〜ひ〜て〜よ〜う〜と〜ら〜ゆ〜ら〜を〜の〜ま〜ま〜み〜つ〜神〜お〜の〜ひ〜ま〜も〜ら〜け〜み〜

枯夢

い〜つ〜と〜ね〜き〜ね〜ら〜ら〜枝〜の〜あ〜ら〜も〜く〜夕〜の〜そ〜ら〜み〜ら〜ら〜〜ゆ〜く〜ね〜ら〜  
む〜く〜ら〜と〜今〜を〜ら〜〜〜枝〜山〜を〜み〜描〜か〜ら〜た〜の〜お〜ら〜ね〜ら〜ひ〜〜

秋山



住わゆるあゝろと一して都人きてはうらやむらきをやまさや  
をを捨てまゝををのわしよとまてはちうやく木の山里  
わいつもあはていく世の木のわきあうきようと筆のねほ

杖湖

そをたて杖のきこもきおちけき羽のうらまふとすふは

杖多

こかちのあゝほちまゝい旁ちて夕うけらま娘の山も  
きとあきのふめというて家あきちよわあをこまうよとらら

杖虫

*Handwritten text in a smaller, cursive style, possibly bleed-through or a separate entry.*

あゝろわき世の人けよむきうせとやらよとて鳴この虫けを

故々姉

池ののすまはわりや一里を流てふほき堤も木のあそふ  
うらとある木のあゝろとつらとまて大津のふゆ木うをけふと

かる草まうあはとま木山家と

まうたてふあすこほりまうちあせをあうふぬたる木のまを山

杖帰眺と

も一草のまるとわつとほ武あまのまをまむとつを杖うせのふく



Handwritten text in a rectangular box, oriented vertically. The text is extremely faint and illegible, appearing to be a list or series of entries.

Handwritten mark or signature at the bottom left of the page.





5